

# 常任委員会行政視察レポート

一月27日、佐賀県嬉野町を訪れ、「観光地におけるまちづくり」を視察しました。

嬉野町における観光地のまちづくりの中で、特にふるさとレトロバイザー制度や、誘致対策費補助金制度などについて、とても興味深く伺うことができました。

また、嬉野茶、日本三大美肌の湯、焼物など自然が多く残されている町でのどか温かみのある光景は、癒し系の保養所型となっています。

昔の男性天国と言われた観光地から、現在は温泉療養を主とした保養所づくりへの展開に努力をされてきました。

翌日の28日には、福岡県福岡町を訪れ、「二バーサルデザイン計画について」を視察しました。

福岡町は、人口4万2千人で、福岡市のベッドタウン的な町ですが、自ら起き上がり、歩くためのリビングタウンに移行するため、住民参画が熱心に行われている町で、総合計画の自然と共生を図りつつ、安全で快適な生活環境を創造するために夢中で取り組まれています。

この研修の成果をどのような議員として生かすべきかを話し合っています。

（勝呂 記）



## 観光環境常任委員会

2月3日に兵庫県神戸市、4日に奈良県奈良市を訪れ、クローバル観光戦略についての視察を行いました。

両市とも広域連携により、東アジア等を対象に「誘客宣伝」や「受け入れ体制の整備」に取り組んでおり、特に神戸市では、広域連携に力を入れているとのことでした。

市独自の事業として、神戸市では、市のイメージや観光資源をデジタル化したDVDを製作し、海外のエージェントなどにPR活動を推進しており、また奈良市では、一般の団体や女子大生による英語での観光案内などを積極的に行っています。

市内の観光地をめぐり、市内観光客の誘致に力を入れていると伺いました。



## 教育福祉常任委員会

2月12日、長崎県長崎市を訪れ、「出島史跡復元整備事業」を視察しました。鎖国時代に唯、西欧との窓口となっていた出島は、戦後オランダ政府の要求により、復元整備が行われることになりました。

現在、170億円の予算で、平成8年度から15カ年計画で、往時の建造物25棟の復元や、扇形の出島の形を明らかにしていく予定となっています。

当町でも、一箱根岡跡保存整備事業が行われており、視察で学んだことをいくつか列記したいと思います。



専門家による審議会とは別に学芸員、土木、建築の職員による特別体制を組んで事業に当たっていること、出島には25人の地権者がいたが、すべて金銭賠償（文化庁より80%の補助）で、公有地化を図ったこと、建物の中の調度品においては、オランダに買い付けに行き整備していること、既に5棟の復元がされており、「外観復元」が主のごとで、自動ドアや売店に使用されたりしていました。

## 編集後記

一月に入りすぐに始まった自衛隊のイラク派遣。鳥インフルエンザや狂牛病による食品の輸入停止など、今まで予想することができなかった不安や日本の弱点が示されました。日本経済も大企業は回復の兆しが見えてきましたが、それが観光等の個人消費に廻るにはまだ時間がかかりそうです。先の見通しが予想できない時代だからこそ反応を早くし、心掛けたいです。それでも今年には、個人的な楽しみになりますが、オリンピックやワールドカップ予選、大リーグに移籍した選手などの活躍に期待が深まります。スポーツは無条件で熱くなれるのが好きなのであります。

（折橋 記）

議会だよりはね

編集委員会

委員長 山田和江

副委員長 折橋尚道

委員 勝呂昌子

（山田 記）